

第4学年 道徳科学習指導案

児童 4年1組 21名
指導者 蛭名 里史

- 1 主題名 「よさを認め、助け合う友情」 B [友情, 信頼]
教材名 ぼくらだってオーケストラ (東京書籍「道徳4年 新しいどうとく」 P.82-P.85)

2 主題について

(1) 価値について

本単元における内容項目B「主として人との関わりに関すること」の「友情・信頼」は「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」をねらいとしている。この内容項目は、第5学年及び第6学年のB－(10)「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」に発展していく。

よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育んでいくことができるように指導していくことが大切である。

この時期の児童は、活動範囲が広がることで集団との関わりが増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とのトラブルを引き起こすことも少なくない。友達のことをよく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切なことから本教材を設定した。

(2) 児童について

本学級の児童は、男子8名女子13名で、学習活動に進んで参加し、意欲的に学習している児童が多い。自分の考えを意欲的に表出する児童、他の考えをじっくりと聞いている児童、なかなか自分の考えがまとまらない児童がいる。お互いの話を聞き、考えようとする姿は見られる。個々の姿をみると、自分の思いを強くもち、何か違った考えがあると、なかなか受け入れられず自分の思いを強く前面に出して行動している児童もいる反面、常に落ち着きをはらい、正しく判断しようとして行動しようとする児童もいる。友達関係については、理解し合って行動しているときもあるが、相手の立場や気持ちを想像できずに、対立してしまうこともある。

今回の授業では、登場人物双方の立場から気持ちを考え、話合いを通して深くとらえていくとともに、自分の考えも持たせ、お互いの思いや立場を理解し合い、友達とよりよい関係を築くことのよさに気付かせたい。

(3) 指導にあたって

「気付く」段階では、問題意識をもたせるために「友情がある」という言葉を投げかけ、児童がこれまでに持っている友情のイメージを引き出す。

「深める・つかむ」段階では、てつおの心情とともになつみの心情も考えさせる。その上でなつみに対する児童の考えを聞き、批判的に捉える場面をつくることで、多面的・多角的に考えさせ、友情・信頼の価値に迫りたい。

「見つめる」段階では、自分の生活を振り返りながら、友達のよさに気付いたこと、助け合ったときのことを思い出し、そのときに思ったことを交流する。自分のこととつなげて考えることで友情が深まってきたことを実感させる。

「まとめる」の段階では、自分自身を振り返りながら教師の説話を聞き、お互いのよさを知り、助け合うことで友達関係がより深くなることを感じ取らせ、今後の実践への意欲と結び付けていきたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

友達と互いに理解し励まし合いながら、助け合おうとする心情を育てる。

(2) 研究仮説の具現化に向けた手立て

①自我関与のさせ方の工夫

場面	ねらい	手立て
楽器が苦手なてつおが、教えてくれるなつみの言うことを、受け止められない場面	友達のよさを認めることや助け合うことのよさに気付いていないてつおの心情に共感しながら考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による考えの可視化。 ・批判的に考えさせる。

②多面的多角的に考えさせる場のあり方

場	ねらい	手立て
<p>てつおができるようになっていく心情を考える場。</p> <p>なつみが自分のことのように喜ぶのを見たてつおの心情を考えさせる場。</p> <p>なつみがどんな思いで教えているかについて考える場。</p>	友達のよさに気付き、助けを受け入れることで、自分がよりよい姿に近づくことができることに気づかせ、道徳的価値の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物双方の心情をとらえさせる。

③振り返りの工夫

発問	ねらい	手立て
友達と助け合って取り組んだことがありますか。そのときどんな気持ちでしたか。	友達と助け合った経験を振り返り、自分との関わりを持ちながら考えさせる。	ワークシート

(3) 展開

		学習内容と主な発問	期待される児童の反応	指導上の留意点 (留意点・評価★)
導入	気づく 5分	1 価値に対する問題意識をもつ。 ・友情とは何か考える。 ○「友情がある」ということばを聞いて どんなことを考えますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">友情とは…</div>	・仲がいい。 ・友達思い。 ・思いやりがある。	・友情について今自分が考えていることを想起させ、問題意識をもたせる。
展開前段	深める	2 「ぼくらだってオーケストラ」を読んで、話し合う。 (1) なつみの助言を受け入れられないてつおの気持ちや教えているなつみの気持ちを考える。 ○なつみはどんな思いで教えているでしょう。 ○てつおは、なつみに「あなたが半分あいている」と言われたのに、知らんぷりしたのはなぜでしょう。	・みんなでうまくになりたい。 ・苦手な人にやさしく教えてあげよう。 ・てつお一人をおいてはいけない。 ・よけいなおせवाद。 ・できないから、ほうっておいてくれ。 ・逆上がりができないのに、えらそうなこと言うな。	・前段のてつおの心情を全体で確認しながら進める。
展開前段	20分	○なつみのことをどう思いますか。 (2) 相手のよさを受け入れ始めるてつおの気持ちを考え、価値に気付く。 ◎熱心に教えてくれるなつみをみて、てつおはどんなことを考えているでしょう。	・やさしく教えてくれるけど、世話好き。 ・ちょっとおせっかい。ほうっておいてほしい。 ・やる気があって、ほかの人のことも考えている。 ・なつみのおかげでうまくなっていくのがうれしい。 ・なつみは熱心に教えてくれてありがたい。 ・なつみは自分のためにやってくれているんだ。 ・おれのためにがんばってくれた。ありがとう。	・なつみについて批判的に考える視点もあたえ、多面的・多角的に考えられるようにする。[手立て1] ・友達のよさや助けを受け入れることで、自分がよりよい姿に近づくことができることに気付かせる。[手立て2]
	つかむ 5分	○なつみが自分のことのように喜んでいますが、このときのなつみはどんな気持ちでしょう。 ○音楽会の出来事から、てつおはどんなことを学んだと思いますか。	・練習してきてよかった。てつおがうまくなってうれしい。 ・音楽会が楽しみだな。 ・友達のおかげでやる気もでてきた。 ・やさしく教えてくれる友達がいてよかった。	・なつみの思いを考えることで、友情が深まっていくことを捉えさせる。

展開後段	見 つ め る 12 分	3 自分自身を見つめ、互いの意見を交流する。 ○友達によさに気付いたこと、助け合ったときのことを思い出してみましよう。そのとき、どんなことを思いましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会のこと ・係活動のこと ・授業中のこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と友達との関わりにおいても互いによさに気づき、助け合うことで友情が深まることに気付けるようにする。 ★ 友達によさや助け合ったよさについて気付いたことを記述している。(発表・ワークシート) [手立て3]
終末	ま と め る 3 分	4 まとめる 自分自身を振り返りながら、教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間のおかげで卓球の技術を高めることができた話。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助けを受け入れてできたことに関する説話をする。

4 板書計画

10/8 ぼくらだってオーケストラ

- ・友だちがいるよさ
- ・友だちのよさがわかる
- ・友情がふかくなる

友情とは

仲がいい。
友達思い。
思いやりがある。

知らんぷり

よけいなお世話
ほうっておいて
えらそうなこというな

・言うとおりにやったらできてきた。
・うれしいな。

・自分のために教えてくれる。
・うまくなりたい。
・ありがとう。

てつお



なつみ

リコーダー練習

うまくいかない

一つ一つ
たしかめながら

「ふけた！」



てつおもうまくなってほしい
みんなでもうまくなってせいこうさせたい。

・練習してきてよかった。てつおがうまくなってうれしい。
・音楽会が楽しみだな。

・おしえてきてよかった。
・みんなといっしょにできる。



19 ぼくらだつてオーケストラ

■ 考えよう① 〓自分のことを思い出しましょう。

友だちのよさに気づいたり、助け合ったりしたことは何をしたときですか。そのときどんなことを思いましたか。

■ 考えよう② 〓

なつみのような友だちと力を合わせて活動するときどんなことを大切にしたいですか。

したこと

思ったこと

月
日

組
番

名前



〈教材分析図〉

- 1 教材名 ぼくらだってオーケストラ (東京書籍)
- 2 ねらい 友だちと互いに理解し励まし合いながら、助け合おうとする心情を育てる。

-15-

主な場面	<ul style="list-style-type: none"> ・市の音楽会に出場することが決まった。 ・楽器が苦手なてつお ・なつみが教えてくれるが、受け止めきれない。「さかあがりもできないくせに。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・なつみの言われた通りにやったら、良い音が出た。 ・なつみの助けを受け入れ、気持ちの良い音が出るようになり喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習を重ね、できるようになった。 ・なつみが自分のことのように喜んでくれた。 ・音楽会が楽しみになってきた。
心の動き	<p>㊦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よけなおせवाद。 ・できないからほうっておいてほしい。 ・さかあがりができないのに、えらそうなこというな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なつみの言うこともわかるけど、言うこと聞くのは嫌だな。 ・練習を頑張ってみようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なつみのおかげでできるようになった。 ・ぼくも得意なことを教えてあげたいな。
価値の関連	<p>㊧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てつお一人をおいてはいけない。 ・てつおもうまくなってほしい。 <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 個性の伸長 友情・信頼 相互理解・寛容 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくなってきた。うれしいな。 ・もっと教えていきたい。 <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 個性の伸長 友情・信頼 よりよい学校生活 相互理解・寛容 親切・おもいやり 努力と強い意志 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・教えてきてよかった。 ・みんなと一緒にできる。 <div style="border: 1px dashed green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 個性の伸長 よりよい学校生活 友情・信頼 感謝 親切・おもいやり </div>
気付かせたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・できないくやしき。 ・教えてもらってもなかなか受け入れられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の良いところを認めることも必要。 ・よさや助けを受け入れようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの教えを受け入れることのよさ。 ・友だちもできたことへの喜び。 ・教えてくれたことへの感謝。 ・助け合うことのよさ。
主な発問	<p>なつみはどんな思いで教えているのでしょうか。なつみに「あなが半分あいている」と言われたのに、てつおが知らんぷりをしたのはなぜでしょう。(なつみに対する考え)</p>	<p>熱心に教えてくれるなつみを見て、てつおはどんなことを考えているでしょう。</p>	<p>なつみが自分のことのように喜んでいきます。どんな気持ちでしょう。</p>